

# 平成24年度事業計画総括

公益社団法人日本放射線技術学会に移行して2年目をむかえる。地方部会費の統一が実施され公益社団法人としての活動をいっそう推し進めて行かねばならない。医療技術分野において放射線技術学の進歩発展を掲げる本学会の果たす役割はますます重要になってきており、医学や理工学等の幅広い分野の会員の活躍による放射線技術学の進歩発展を通して社会に貢献できる学会となるように会務運営に努めたい。また、英語論文誌「Radiological Physics and Technology」や学術交流ならびに学術大会での国際発表セッション等を通じた国際化の推進および専門技術の向上を目指した教育面の充実を柱として放射線技術学の将来を見据えた事業展開を図っていく。さらに放射線技術学の立場から、福島原発事故に関連して緊急を要する対策を臨機応変に講ずる。

会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、平成24年度事業計画の総括を述べる。

## 1. 学術大会の開催；公1

### 1) 総会学術大会の開催

第68回総会学術大会を平成24年4月12日(木)～15日(日)の4日間、土井 司大会長のもとでパシフィコ横浜会議センター他でJRCの運営により日本医学放射線学会総会、日本医学物理学学会学術大会ならびに国際医用画像総合展との併催で開催する。

また、第69回総会学術大会を杜下淳次大会長のもとで、平成25年4月に開催（パシフィコ横浜会議センター 他）に向け準備を進める。

### 2) 秋季学術大会の開催

第40回秋季学術大会を平成24年10月4日(木)～6日(土)の3日間、保科正夫大会長のもとタワーホール船堀においてJRCの共催を得て開催する。

### 3) 専門分科会の開催

7つの専門分科会が独自の企画で教育プログラム他の内容により、春秋の学術大会にジョイントして分科会を開催する。会員の国際化を目的として、海外からの教育講演も積極的に企画していく。また、技術セミナー、研修会等の開催の他、学術委員会、地方部会等との共催事業や講師派遣等の学術活動も行う。

### 4) 地方部会事業への支援

地方部会と学術委員会、専門分科会が協力して学術講演会の開催や研修会等を実施し、地域における学術活動を活性化させていく。

### 5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

公益法人としての事業の一環として、また本学会の学術領域を社会にPRする目的で今年度は3回(京都市、筑波市、福島市)開催する。

### 6) 学術講演会の開催

学術委員会、専門分科会、地方部会の協力のもとに、学術講演会や各種セミナーを開催する。

## 2. 学会誌・刊行物の発刊；公2

### 1) 学会誌

学会誌第68巻第3号～第69巻第2号の12冊を毎月20日に定期発刊する。その中で論文特集号(第68巻11号「放射線技術における3D・4Dのフロンティア」関連)も組み込む。オンライン投稿査読新システムの活用で継続して審査期間の短縮、掲載の迅速化に努める。また、学術研究発表から論文化への推進などを行い投稿論文の増加推進に努める。電子ジャーナルの発行を行う。

### 2) 英語論文誌

第5巻2号を平成24年7月20日に、第6巻1号を平成25年1月20日に発行の予定で、会員の積極的な投稿を喚起したい。これらの論文は冊子体として会員に届ける以外に、受理されるごとに順次電子ジャーナルとして掲載し、インターネットを通じて速く広く公開する。第68回総会学術大会で土井賞表彰式ならびに

受賞者講演を開催する。

### 3) 出版活動

放射線医療技術学叢書の発刊および増刷、放射線技術学教育関連図書の発刊の他、既出版物の販売促進も図る。

## 3. 委員会活動と一般事業

### 1) 企画委員会；共通

学会の組織改革（教育委員会の常置化、各小委員会の存在意義など）、今後の国際放射線技術科学会議についての方針や取り組み、専門技師認定機構と本学会のあり方などについて検討を行う。

### 2) 学術委員会；公1、公3

学術調査研究班（10班）、学術講演会、各種セミナー・研修会等の開催、市民参加の公開シンポジウム等を開催する。教育小委員会主導で第68回総会学術大会および第40回秋季学術大会時に「専門講座」および「入門講座」の実施およびE-learningシステムの定着化と改善等を行う。また、医療安全対策小委員会はフォーラムの開催、医療事故防止のための医療事故等の警鐘事例に関する広報宣伝の強化を図る。プログラム小委員会は第40回秋季学術大会、第69回総会学術大会の演題発表に関する企画およびプログラム編成を行い、予稿集を完成させる。

### 3) 学術交流委員会；公5

関連学協会および団体と積極的な交流を図るとともに、海外短期留学生の派遣、国際研究集会への派遣、海外研修への派遣等を継続して行う。また、昨年度正式に学術交流に関する覚書を締結した中華医学会影像技術学会と大韓放射線科学会の学術交流関係を継続し、一般会員相互の交流に発展するよう努力する。関係法令等検討小委員会は、放射線管理フォーラムの開催、関係法令の改正および医療現場の対応に関する動向調査・検討を行う。標準化小委員会は、関連省庁、JIRAと協力し、医療画像機器の安全・性能・品質保証に係る標準化事業を推進する。医療情報関連小委員会は関連学会および諸団体と連携を図り、主として標準化に係る規格・コード・ガイドライン等について協議、策定を行う。

### 4) 表彰委員会；公4

表彰規定に基づく各賞受賞候補者の選考ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。

### 5) 広報委員会；公2

学会事業ならびに放射線技術学に関係する事柄の学会内外への広報ならびにホームページに係る更新・運営等を行う。

### 6) 総務委員会；共通

総務・庶務に関わる事業の円滑運営が図れるよう、管理業務の統括と事務局運営の合理化、会員カードシステムの改修・機能強化ならびに地方部会費の統一後の諸問題および新設する東京事務所の実運用、整備について検討する。

### 7) 選挙管理委員会；法人

平成25・26年度の代議員選挙および役員定数選出選挙を実施する。

### 8) 倫理審査委員会；共通

学会事業および学術活動に対する倫理上の問題について対応する。

### 9) 倫理規定・倫理ガイドライン作成特別委員会；共通

平成24年度から施行される倫理規定を会員が実践するために必要な知識と方法を提供するガイドラインを作成する。また、学術大会等で倫理に関する教育と指導を行い、実践できるよう会員に普及させる。

### 10) 将来構想特別委員会；共通

公益法人として新たに出発した学会としての将来像を構築するために、学会の現状分析とこれまで評価された将来構想を基に、中長期的および短期的な具体的目標を掲げるシステムについて検討し、答申する。

#### 4. その他；公5

- (1) JRC理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。
- (2) 教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。
- (3) 日本放射線技師会と共催にて合同セミナーを8月（予定）に開催する。